

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

すまいるたん



汐入

第172号
平成23年

3月13日

はい！東京新聞です

内幸町 本社からの発信

南北戦争とは、

そして日本との関係は



編集委員（元したまち支局長）

植木幹雄

昨年十一月に、米国議会が南北戦争（一八六一〜六五年）から百年以上たった一九七五年に敗者である南軍のリー將軍の名誉回復宣言を行ったこと、南北戦争が奴隷解放の北軍と、奴隷制度維持主義者の南軍という簡単な分け方はできないと書きましたが、読者から、興味ある質問をいただきました。①黒人たちはこの戦争の間どうしていたのか②日本への黒船来港、戊辰戦争と年代が近いけれど、日本との関係はーというものです。さすが東京新聞の読者。結構面白い歴史があります。

まず①ですが、時代背景を考えましょう。リンカーン大統領は確かに崇高な理念を持った大統領です。でも、経済面からとらえると、全く異なる姿が見えてきます。南部は綿花栽培が盛んで、英国に輸出して莫大な利益を上げ、自由貿易を考えていました。一方、北部はやつと工業化が進み、労働力を必要としていました。安価な労働力の取り合いが始まります。

でも、名目は奴隷解放の戦いですので、黒人にも戦ってもらう必要があります。それに戦力も不足。そこで、黒人部隊が編成されます。部隊数は不明ですが、代表的なのが、マサチューセツ州の黒人で組織された第五十四連隊で、

「グローリー」という映画にもなっています。黒人達は有能で、戦争終了後はいくつかが陸軍の正式部隊になっています。しかしさまざまな差別が続く、第二次世界大戦でも、当初黒人はパイロットになれませんでした。終盤に新式戦闘機を操る黒人部隊の332航空隊は、差別を乗り越え、欧州で爆撃機の護衛に当たって一機も未帰還爆撃機を出さず、最も信用できる飛行隊とまでいわれました。

しかし、現在では米軍の構成は、黒人は国民の一割程度なのに、軍では二〇パーセントを超え、ヒスパニック系を含めると三五パーセントと言われています。

②は、南北戦争終結当たりから、日本では幕府反幕府の戦いが本格化します。原因をつくったのも米国の黒船来港（一八五三年）です。南北戦争は、武器の品評会のように、小銃だけで八十五種類が使われたといわれます。西部劇で有名なウインチェスター連発銃、機関銃の始まりガトリング銃が登場したのもこのときです。戦争が終わり、米国内では銃が余り、これが、日本に大量に流れ込んできたわけです。

さて、当時の国際情勢は異論が多く、ここからはあくまで諸説の類です。米国は、やつと工業化が進み、英仏と同じように海外進出の基地を確保したかったわけですが、それには拠点がある。格好の島が日本だったわけです。名目上は捕鯨基地となつていますが、でも、南北戦争中と、直後は動きが取れず、気がついたら英仏が日本に食い込んでいたという格好。それでも、何とか日本の市場に乗り込んでいきます。

この辺が面白いところで、南北戦争がなければ、英仏米と、三つ巴のかたちとなり、歴史は変わっていたかもしれない。また、日本が英仏の代理戦争として内戦が激化すれば、どちらかの国の植民

地になつていて、という説もあれば、いや英仏は、日本人の手強さを理解していた、英も仏もどちらかが日本に手を出せば米国がどちらかと組んで對抗してくると思った、などさまざまな推論があります。

【お知らせ】今回から事業局の協力で、不定期ですが、美術展情報などもお伝えいたします。東京新聞事業局の文化事業は、日本有数の実力があると言われているのは、ご存じでしたか。

事業局発

写楽のほとんどすべての作品を網羅する夢のラインナップ

役者は揃った！

寛政六（一七九四）年五月、江戸三座の役者を個性豊かに描いた大判雲母摺りの豪華な作品二十八図を、一度に出版するという華やかなデビューを果たした東洲斎写楽は、翌年正月に忽然と姿を消しました。その間十カ月（寛政六年は、閏十一月が含まれる）、写楽が残した版画は百四十図以上確認されており、それらは題材となつた歌舞伎の上演時期によって制作時期が四期に分けられています。

本展覧会では、約百四十図、約百七十枚の作品によって、写楽版画の全貌を明らかにするとともに、同時代の他の浮世絵師の作品との比較を通して、写楽作品の造形の魅力を紹介します。その数と質において、空前絶後の展覧会です。

今回東京新聞南千住の読者五組十人様に、写楽展のチケットを抽選でプレゼントします。十九日まで、南千住専売所に電話〓3803・1783へ。1か、ファクス〓3803・1783へ。